

ボードゲームのすすめ2

低学年向け、中学年向け、高学年向けにおすすめゲームをご紹介します。

低学年向けのゲームは親と一緒に遊んであげる形ですが、中学年、高学年向けは親も一緒に楽しむことができます。また、中学年、高学年向けのゲームでもルールを簡単にしたり、ハンデをつけたりすることで、ご家族みんなで楽しむことができます。

■低学年向けのゲーム

お父さんお母さんが低学年の小さいお子さんと一緒に遊んであげるゲームです。

①ヒントを言います

与えられたお題に対して子どもがヒントを言って、親御さんが答えを当てるゲームです。

親御さんの一人がお子さんにどんなヒントを言うかサポートをしながら進めるとスムーズです。お父さんお母さんに答えをあててもらった時のお子さんの嬉しそうな顔に親も癒されます。

プレイ推奨年次：低学年

プレイ人数：2人～3人

プレイ時間：10分

②メイクン・ブレイク

お題の絵の通りに積み木を組み立て、真ん中にある白い積み木を取ります。白い積み木は参加人数-1個用意され、ビリ以外の方が積み木を取る事ができます。積み木がお題通りに出来ていることが確認できたら、チップを1枚もらえます。

チップを10枚集めた人の勝ちです。お父さんお母さんは出題者として参加します。

丁寧に積み上げることとスピード勝負の矛盾することが求められ、白い積み木を取ることが出来た時はガッツポーズがでます。

ご兄弟で遊ぶときは、年長の子は片手や特定の指のみを使用することで対等に遊ぶことができます。親御さんが一緒に遊ぶ場合は、両手の小指のみ使用するなどの工夫をすると良いでしょう。

プレイ推奨年次：低学年～中学年

プレイ人数：2人～5人

プレイ時間：15分

■ 中学年向けのゲーム

年齢が上がってきて、少し頭を使うゲームが出来るようになると楽しめるゲームです。

① テレストレーション

伝言ゲームを絵と言葉で行うようなゲームです。

最初に、1番目の人がお題を決めます。そのお題に対して1番目の人は絵を描きます。2番目の人はその絵から想像されるお題を文字で書きます。3番目の人はその文字で書かれたお題を見て今度は絵を描きます。絵→文字→絵→文字 の順にプレイヤーが一巡するまで行います。

最初のお題が最後にはどんなお題（または絵）に変わってしまっているでしょうか。絵が上手でない方が楽しいゲームになること間違いなしです。

プレイ推奨年次：中学年～高学年

プレイ人数：2人～8人

プレイ時間：15分

② ラビリンス

盤上につくられた迷路から、決められたお宝を回収してスタート地点に戻って来ることを目指します。

ただし、この迷路はプレイヤーの手番でどんどん変わっていきます。次でお宝にたどり着くはずだったのに！ということもあれば、偶然、お宝にたどり着いてラッキー！ということもあります。

あなたは刻一刻と変わっていく迷路の中、お宝をゲットしてこられるでしょうか？

プレイ推奨年次：中学年～高学年

プレイ人数：2人～4人

プレイ時間：30分

■高学年向けのゲーム

パズルや言葉を使ったゲームです。高学年になると親が本気でやっても勝てないことがあります。

①ウボンゴ

3つか4つのピースを使って、お題の形を制限時間内に作るパズルゲームです。(タングラムのようなイメージです。) 1人1人が別々のお題に対して、一斉にスタートします。最初に完成した人は「ウボンゴ!」と叫びます。制限時間内に完成した人は全員宝石(1~4点のうちランダム)がもらえ、1番目と2番目に完成した人には更にご褒美の宝石(1番目:4点、2番目:2点)がもらえます。9つのお題に挑戦し、点数が高い人が勝ちです。

ボードゲームクラブでも人気のあったゲームです。

プレイ推奨年次: 高学年

プレイ人数: 1人~4人

プレイ時間: 25分

②ワードバスケット、ワードバスケット キッズ

カードで行うしりとりゲームです。最初にひらがな1文字のカードを場に置きます。プレイヤーにはひらがな1文字が描かれたカードが5枚ずつ配られます。プレイヤーは、場に出ている文字で始まり、手元のカードで終わる言葉を考え、思いついたらその言葉を言いながらカードを場に重ねます。(場に「か」があり手元に「す」がある場合、「からす」と言って「す」を場に出します。)次は場に出された文字で始まり、自分の手元の文字で終わる言葉を考えます。順番は関係なく、早い者勝ちでカードを出します。カードを最初になくした人が勝ち。言葉が出かかっているのに出てこないもどかしさと、連続して言葉がポンポン出てきた時の爽快さが面白いゲームです。

ボードゲームクラブでも人気のあったゲームです。

プレイ推奨年次: 高学年

プレイ人数: 2人~4人

プレイ時間: 30分